



九 月 の 南 天

日が西に没して九月の空には、七夕の夫婦星の後を追ふて、白鳥の北十字星座が我が邦の天頂を占領し、また之れを貫く天の河は既に其の流れの方向を東北から西南へと變へてゐる。白鳥座は廣い星座で、二重星、三重星、變光星、星雲など、實に見るものが多い星座である。新星も亦何時出現するが豫想が出来ない。

南天には山羊や水瓶や魚など、淋しい星座が連続してゐるが、只、木星が魚座に頑居してゐるここぞ、はるか南に南魚座のフォマルハット星が閃めいてゐるここぞが眼を惹く。——しかし、此等と同時に、夜が更けるに、天頂にはペガスの方形が迫つて來、其のあさから、アンドロメ、カシオペア、ペルセ等の秋らしい星々が續く。夜半には東南の天空に鯨が既に全身を現はし、殊に其の星座中の怪星ミラが可なり明るく光りを増して來てゐる。今年度此の星は10月初に最大光輝に達する筈である。此の星の光度観測を讀者は勵んで貰ひたい。比較星の目録は「天界」第69號第524頁にある。

ペルセ座のアルゴル星も亦見逃せない。今年今月は、14日3時と、17日0時と、19日21時とに最小光輝となる筈である。之れも、圖と比較星とは「天界」の昨年末のものに載つてゐる。